CARE MIRAI BOOK

ケアのみらいブック

THE BEGINNING

Community 3.0

人口減少時代における新しい地域社会モデル



Founder's Edition 2026

BOOK 01 / Version 1

CARE MIRAI GROUP

未来は、

私たちの手で育てていける。

ここは、廃校になった小さな学校。けれど、ここから新しい未来が始まりました。人がつながり、挑戦が生まれ、希望が育つ場所へ。それが、CARE MIRAI GROUPの原点です。

CARE MIRAI GROUP

CONTENTS

この本のご案内

01　私たちが大切にしていること　4

02　私たちの約束　5

03　未来へつなぐ手紙　6

04　Community 3.0 地域社会の構想　9

05　私たちが育てる未来の木　11

06　5つの事業領域　12

07　なぜ、今この挑戦なのか　15

08　私たちが意思決定する基準　16

09　未来へつなぐ仕組み　19

10　挑戦が循環する仕組み　20

11　CARE MIRAI DAY　21

12　未来は、ここから始まる　22

13　発行情報　23

私たちが大切にしていること

この本は、CARE MIRAI GROUPの創業時点における想いと、未来へ受け継ぎたい考えを記録する本です。地域で共に働く仲間や、私たちの活動に関心を寄せてくださる方と、これからを考えるためにまとめました。

CARE MIRAI GROUPは、社会福祉法人蒼天とケアのみらい株式会社を合わせたグループの呼称です。グループ自体に法人格はありません。両法人の想いと取り組みをつなぎ、地域での福祉実践と、新しい事業やテクノロジーの活用を、共通の目的のもとで育てていきます。

私たちが、なぜこの地域で福祉に取り組むのか。なぜAI・ICT・ロボットを実装しようとするのか。人口減少時代に、何を守り、何を変え、何を次世代へ渡そうとしているのか。その問いと、現時点での答えを残すための本です。

この本には完成形がありません。
毎年4月21日のCARE MIRAI DAYに読み返し、地域での実践、失敗、学び、新しい挑戦を反映しながら更新していきます。Version番号は、組織が育ってきた時間の記録です。

未完成であることを恐れず、まず形にし、使い、対話し、改善する。この本そのものを、地域を育てる「Community 3.0」と、未来へ受け継ぐ仕組みをつくる「Inheritance Design」の実践として育てていきます。

未来を育て、

次の世代へつなぐ。

私たちの約束

私たちは、会社を大きくするために存在するのではありません。AIを導入するためでも、ロボットを普及させるためでもありません。

私たちのPurposeは、

より良い社会をつくり、次世代へバトンを渡すこと。

そのために、地域の文化をつなぎます。歴史をつなぎます。人と人との支え合いをつなぎます。挑戦する心をつなぎます。テクノロジーを、人へ、地域へ、未来へつなぎます。

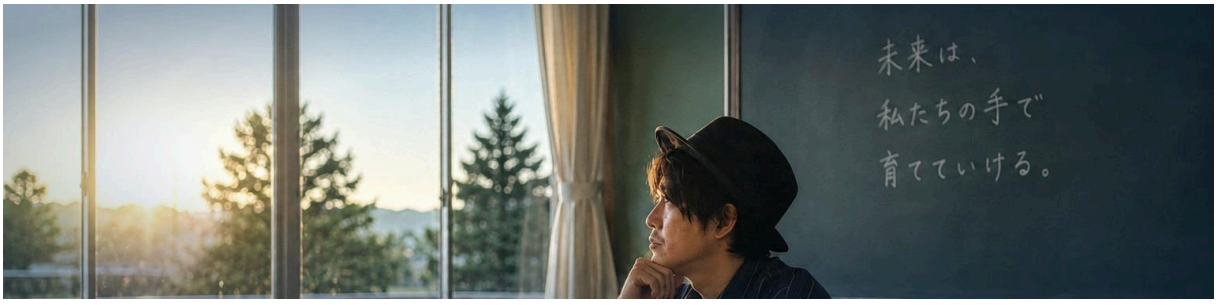
人口減少は止められないかもしれません。しかし、人口が減ることと、地域の幸せが減ることは同じではありません。

福祉、教育、医療、地域、AI、ICT、ロボット。それぞれを別々の領域として扱うのではなく、一つの地域社会としてつなぎ直す。それがCommunity 3.0です。

私たちが未来へつなぎたいものは、地域であり、文化であり、人であり、挑戦であり、幸せです。



未来へつなぐ手紙



私が福祉の仕事を始めた頃、AIが支援を手伝い、ロボットが地域の暮らしを支える時代を、これほど現実的に考えることはありませんでした。

しかし、福祉の現場で見続けてきたものは、今も昔も変わりません。
人と人とのつながりです。支え合う地域です。
子どもたちの笑顔です。利用者さんの言葉です。地域の行事を続けようと動く人たちの姿です。

社会福祉法人蒼天の本部がある稲敷市では、人口減少が進み、福祉施設だけでなく、地域活動、自治会、団体、ボランティアまで、担い手不足と高齢化が進んでいます。求人を出しても人が集まらない。支えてきた人たちも年齢を重ねていく。

このままでは、福祉サービスだけでなく、地域そのものの営みが続かなくなるのではないか。
その危機感が、ケアのみらい株式会社の原点です。

当初、社会福祉法人蒼天だけで、つくばへの進出を考えました。
つくばに拠点をつくり、稲敷の活動を知ってもらい、新しい人材や技術と地域をつなぐ。
つくばを選んだのではなく、つくばという未来への接点を選びました。

同じ頃、世界ではヒューマノイドロボットが急速に進化し、家庭や職場へ入る未来が現実味を帯びていました。
子どもの頃からロボットのアニメが好きだった私は、ロボットを単なる機械ではなく、人と共に生活し、地域を支える仲間として思い描くようになりました。

AIやロボットは、人を減らすために使うものではありません。
人が人に向き合う時間を増やし、地方での暮らしを支え、福祉を未来へつなぐために使うものです。

私が残したいのは会社そのものではありません。
地域の文化、歴史、営み、交流、そして支え合う人の姿です。
格差を完全になくすことは難しいかもしれません。それでも、一人ひとりがその人なりの人生を歩み、最後に「人生は楽しかった」と振り返れる地域をつくりたい。

この本を読んでいる未来の仲間に、一つだけお願いがあります。
この憲章やブランドを守るだけでなく、育ててください。時代が変われば、言葉も、事業も、技術も変わります。
変えてはいけないのは、より良い社会をつくり、次世代へバトンを渡そうとする想いです。

根本 敏宏　　創業者　CARE MIRAI GROUP

幸せとは何か。

考え続けよう。

人口減少時代の新しい地域社会のモデル

地域は、建物ではありません。行政区でも、制度でもありません。地域とは、人が暮らし、出会い、支え合い、笑い、泣き、世代を越えて受け継がれていく営みです。

本書では、家族や近隣による支え合いをCommunity 1.0、医療・介護・障害福祉・行政など制度や専門職による支えをCommunity 2.0と整理します。これらは今も重なり合って暮らしを支えています。その両方を受け継ぎ、人・地域・テクノロジーをつなぐ構想が、私たちのCommunity 3.0です。

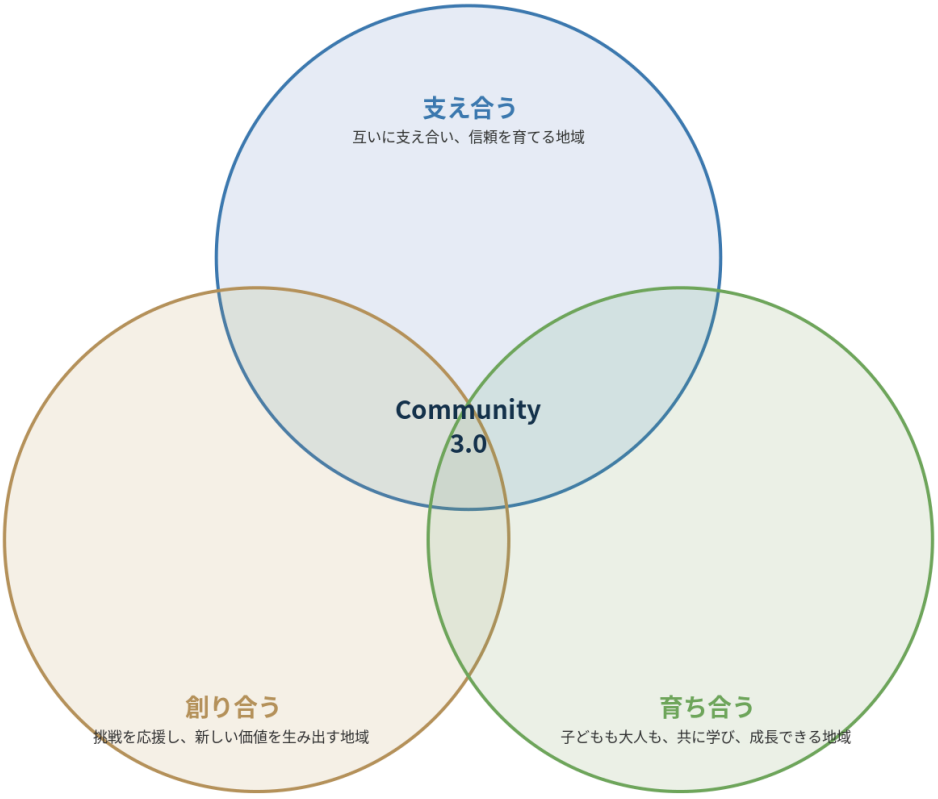
制度は多くの命と暮らしを支えてきました。一方で、制度だけでは守りきれないものがあります。地域のつながり、居場所、生きがい、挑戦、そして「この地域で暮らし続けたい」という願いです。

Community 3.0は、人・地域・テクノロジーが、それぞれの役割を認め合いながら支え合う社会です。人だけに負担を集中させない。制度だけに依存しない。技術だけに期待しない。それぞれの強みを持ち寄り、地域の暮らしを未来へつないでいきます。

AIは記録や情報整理を支え、ICTは人と情報をつなぎ、ロボットは移動や見守り、作業を支えます。その結果、人は人に向き合う時間を増やすことができます。

Community 3.0は、福祉サービスの新しい形だけを示すものではありません。教育、医療、地域づくり、企業、行政、防災、子育てを含む、人口減少時代における新しい地域社会のモデルです。

この3つが循環することで、地域は持続し、未来へつながります。

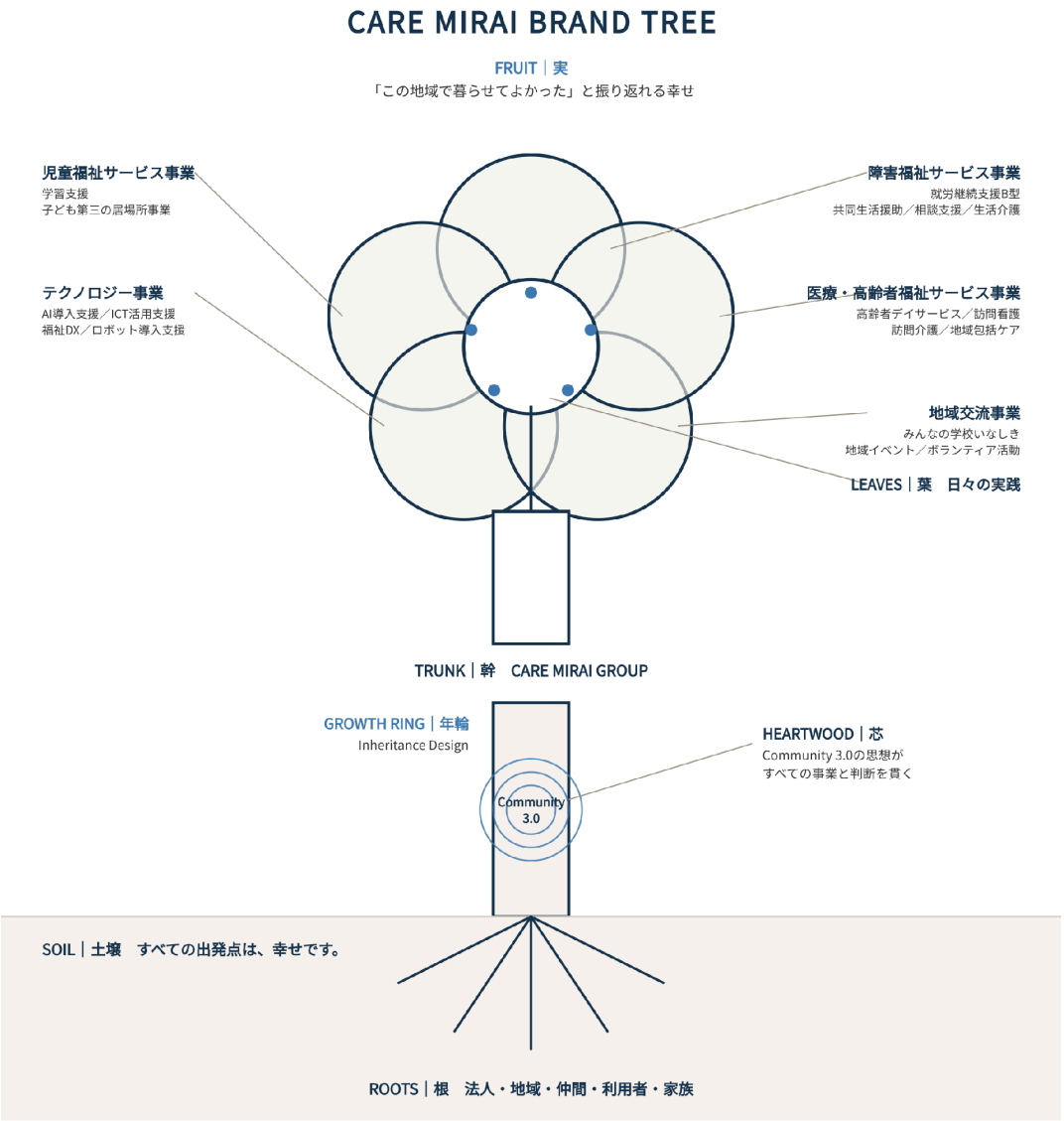


地域は、完成しない。

だから、育て続ける。

一本の樹が、地域の未来を育てる

CARE MIRAI GROUPのブランドは、上から下へ並ぶピラミッドではなく、土壌から根を張り、幹が育ち、枝が広がり、葉が生まれ、実を結ぶ一本の樹として捉えます。



私たちが実らせたいものは、売上や施設数だけではありません。
地域で暮らす人が「この地域で暮らせてよかった」「人生は楽しかった」と振り返れること。その幸せを、次の世代へ受け継ぐことです。

5つの事業領域で、地域の暮らしを支える

CARE MIRAI GROUPは、5つの事業領域を通じて一本の樹を育てていきます。

ここでは、現在の取り組みと、これから目指す事業の方向性を紹介します。それぞれをつなぎ、子どもから高齢者まで、一人ひとりの人生と地域の暮らしを支えていきます。

障害福祉サービス事業

「その人らしく生きる」を支え、働く・暮らす・未来をつなぐ。

障害のある方が地域で安心して暮らし、自分らしく働き、人生を歩めるよう支援します。

取り組み・事業の方向性

- ・就労継続支援B型　実施中
- ・共同生活援助（グループホーム）　実施中
- ・相談支援　実施中
- ・生活介護　開設準備中

児童福祉サービス事業

「子どもたちの未来」を育て、可能性を広げる。

子どもたち一人ひとりが安心して学び、挑戦し、自分らしい未来を描ける環境を育みます。

取り組み・事業の方向性

- ・学習支援　実施中
- ・子ども第三の居場所事業　実施中
- ・地域と連携した子ども食堂・体験活動　実施中

医療・高齢者福祉サービス事業

「住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる地域をつくる。」

医療・介護・福祉が連携し、住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けられる社会を目指します。訪問看護は高齢者に限らず、地域で療養する幅広い世代の暮らしを支える事業として位置付けます。

利用者一人ひとりの生活に寄り添いながら、地域とのつながりを大切にし、「支える介護」から「共に暮らす地域づくり」へと発展させていきます。

取り組み・事業の方向性

- ・高齢者デイサービス事業　将来構想
- ・訪問看護事業　開設準備中
- ・訪問介護事業　将来構想
- ・医療・介護・福祉の多職種連携　将来構想
- ・地域包括ケアの推進　将来構想

地域交流事業

「人と人をつなぎ、地域に新しい出会いを生み出す。」

地域には、制度だけでは支えきれない大切なつながりがあります。

世代や立場を越えて人が集まり、学び、交流し、新しい挑戦が生まれる場をつくることで、地域そのものを育てていきます。

取り組み・事業の方向性

- ・みんなの学校いなしき
- ・地域イベント
- ・ボランティア活動
- ・地域交流・共生の場づくり

テクノロジー事業

事業の状況：実施中

「テクノロジーで、人が人に向き合う時間を増やす。」

AI・ICT・ロボットは、人に代わるためではなく、人がより人らしく支え合える地域を実現するためのパートナーです。

CARE MIRAI GROUPでは、テクノロジーを地域福祉へ実装し、人口減少時代の新しい地域社会「Community 3.0」を実証していきます。

取り組み・事業の方向性

・AI導入支援

・ICT活用支援

・福祉DX

・ロボット導入支援

・地域課題を解決する新規事業の開発

5つの領域をつなぐ

5つの事業領域は、それぞれが目的ではありません。

一本の樹の枝として互いにつながり、人を支え、地域を育て、未来へ幸せをつないでいくための実践です。

高齢になっても、障害があっても、子どもでも。誰もが住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられる社会を目指します。

なぜ、今この挑戦なのか

人口減少、少子高齢化、人材不足。これらは、もう未来の話ではありません。地方では学校や商店がなくなり、地域活動を続ける人も少なくなっています。

福祉の現場でも、求人を出しても人が集まらない。長年地域を支えてきた職員やボランティアは高齢になり、「続けたいけれど、続けられない」という声が増えています。

社会福祉法人蒼天も、その現実の中にあります。廃校を活用した『みんなの学校いなしき』には、障害福祉、子どもの居場所、学習支援、地域交流など、多様な活動が集まっています。一方で、それらを支える人材の不足は、法人の継続に直結する課題です。

これは蒼天だけの問題ではありません。高齢者施設、障害福祉事業所、医療機関、自治会、地域団体。地域を支えるあらゆる組織が、同じ課題に向き合っています。

私たちは、人の力を信じています。人の温かさ、人が人を支えることは、これからも福祉の中心です。しかし、人だけでは支え続けられない時代に入っています。

だから、新しい仲間が必要です。AI、ICT、ロボット。これらを人の代わりとしてではなく、人が人らしく生きる時間を守る仲間として実装します。

地方は『課題先進地域』と言われます。しかし、私たちは地方を『未来先進地域』と捉えます。日本がこれから直面する課題を、地方はすでに経験している。だからこそ、地方には未来の社会を先に実証できる可能性があります。

稲敷で実証し、つくばという未来への接点で発展させ、全国へ、世界へ届ける。
Community 3.0は、地方から始まります。

地方だから、できない。ではない。

地方だから、未来を実証できる。

私たちは、何を基準に意思決定するのか

CARE MIRAI GROUPの意思決定は、二つの層で支えられています。ひとつは、100年後も変わらない原則。もうひとつは、時代とともに毎年育てていく実践です。

Layer 1　PHILOSOPHY　— 変わらない原則

これらは、100年後も変わらない判断の土台です。

01 Purpose First

目的から考える。

手段は変わる。AIも変わる。ロボットも変わる。制度も変わる。しかし、「より良い社会をつくり、次世代へバトンを渡す。」このPurposeだけは変わらない。すべての判断は、ここから始まる。

02 Community First

地域から考える。

私たちは、施設運営を土台に、地域を育てる。一人ひとりの利用者を中心に、その人の家族、地域とのつながり、未来まで考える。福祉の実践を、地域づくりへつなげていく。

03 Humanity First

人間らしさを守る。

テクノロジーは、人の代わりではない。人が、人らしく生きる時間を増やすためにある。効率より、尊厳。便利さより、つながり。私たちは、人間らしさを中心に設計する。

04 Challenge First

地方から挑戦する。

地方だからこそ、未来を実証できる。前例から学び、前例のない課題にも挑戦する。安全と尊厳を大切に、小さく試し、確かめながら前へ進む。

05 Design for Inheritance

継承を設計する。

文化。歴史。知識。挑戦。幸せ。これらは、偶然には残らない。未来へ残る仕組みを設計する。それが、Inheritance Designである。

Layer 2　PRACTICE　— 進化し続ける実践

時代とともに、毎年育てていく実践です。

01 Learn Together

学び続ける。

地域から学ぶ。利用者から学ぶ。仲間から学ぶ。未来から学ぶ。学びを止めた瞬間、Community 3.0は止まる。

02 Build Together

共につくる。

Community 3.0は、一人では実現できない。行政。企業。学校。大学。地域。家族。利用者。AI。ロボット。すべてが仲間である。

03 Prototype First

まず実証する。

机の上では終わらせない。まず、地域で試す。蒼天で実証する。改善する。そして、ケアのみらいが社会へ実装する。

04 Platform Thinking

プラットフォームを育てる。

事業を増やすことが目的ではない。地域がつながる仕組みを育てる。人が集まる場所を育てる。知識が循環する仕組みを育てる。Community 3.0は、一つのプラットフォームである。

05 Think 100 Years

100年後から考える。

目の前の暮らしを支えながら、100年後の未来も考える。今日の選択が次の世代にどうつながるかを問い、「ありがとう」と言える未来へつなぐ。

06 Keep Asking

問い続ける。

Community 3.0は、完成しない。Inheritance Designも、完成しない。だから、問い続ける。改善し続ける。育て続ける。

CARE MIRAI GROUPでは、毎年4月21日のCARE MIRAI DAYに、このCARE MIRAI WAYを読み返します。

私たちがこの原則から離れていないかを、あらためて問い直す日です。

09 / INHERITANCE DESIGN

継承は、偶然ではなく、設計できる

継承とは、古いものをそのまま残すことではありません。
変化しながら、本質を受け継ぐことです。

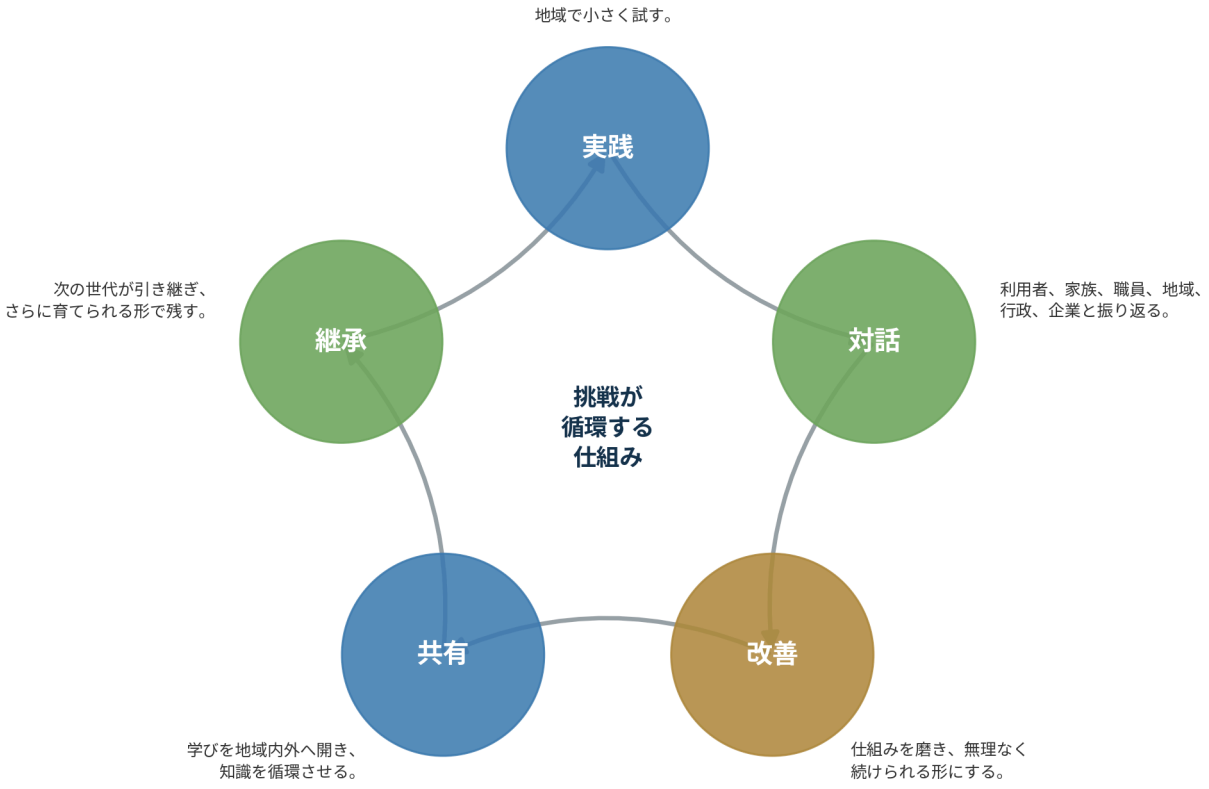
人が変わっても、職員が変わっても、代表が変わっても、地域への想いと挑戦が受け継がれる。そのために、思想を言葉にし、文化にし、実践へ落とし込みます。

私たちが未来へ渡したいのは、建物や制度だけではありません。
地域の文化、歴史、人と人とのつながり、挑戦する心、知識、そして幸せを考え続ける姿勢です。

Inheritance Designとは、それらが未来へ受け継がれる仕組みを設計することです。
属人化を減らし、知識を残し、失敗も成功も共有し、次の世代がさらに良い形へ育てられるようにします。

挑戦が循環する仕組み

Community 3.0は、一度つくって終わるモデルではありません。地域で実践し、対話し、改善し、共有し、次世代へ継承する。この循環を繰り返しながら育てます。



この循環そのものが、CARE MIRAI GROUPの成長の方法であり、Inheritance Designの実践です。

みんなでつくる、特別な一日

ケアのみらい株式会社の設立日である4月21日をCARE MIRAI DAYとし、CARE MIRAI GROUPが原点へ戻る日と位置付けます。共に歩んできた時間を振り返り、地域の未来へ向けて、次の一年を始めます。

Purposeを確認する。Community 3.0の一年を振り返る。失敗と学びを共有する。新しい挑戦を宣言する。この本を改訂し、新しいVersionを発行する。

CARE MIRAI DAYは、ブランドや理念を確認するだけの日ではありません。スタッフ一人ひとりが、自分たちの仕事が地域の未来とどうつながっているかを考え、チームとして次の一年を始める日です。

最後に、全員で問い直します。

・私たちは、Purposeから離れていないだろうか。

・私たちは、地域を育てているだろうか。

・私たちは、人間らしさを守れているだろうか。

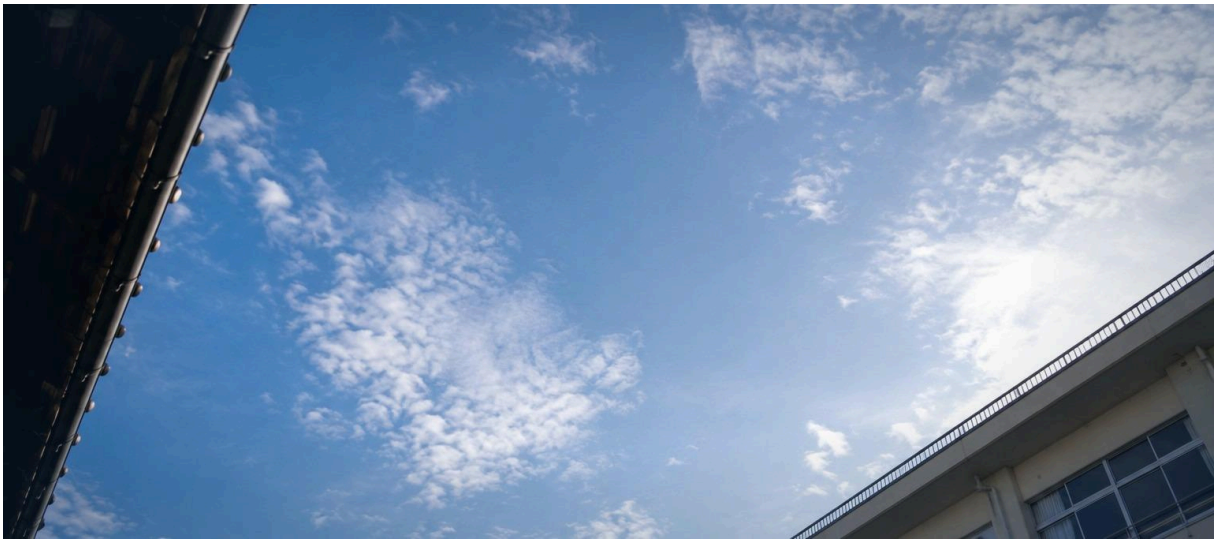
・私たちは、挑戦を恐れていないだろうか。

・私たちは、未来へ残る仕組みを設計しているだろうか。

・私たちは、幸せとは何かを考え続けているだろうか。

未来は、ここから始まる。

廃校になったこの場所が、未来を育てる場所に変わりました。私たちの挑戦は、まだ始まったばかりです。さあ、一緒に未来を育てていきましょう。



未来を育て、次の世代へつなぐ。

幸せとは何かを、考え続けていこう。

CARE MIRAI GROUP

発行情報

発行：CARE MIRAI GROUP（社会福祉法人蒼天／ケアのみらい株式会社）

CARE MIRAI GROUPは、社会福祉法人蒼天とケアのみらい株式会社を合わせたグループの呼称です。両法人の強みを生かし、福祉・地域づくりとテクノロジーの活用を通じて、地域の暮らしを支え、幸せを次の世代へつないでいきます。

監修：根本 敏宏（創業者）

Edition：Founder's Edition 2026 ／ Version 1（初版）

初版：2026年

本書は毎年4月21日のCARE MIRAI DAYに読み返し、更新されます。